

国際関係概論 16

林 光

2007年10月18日 木曜日

0 事務連絡

・「成績評価方法が未定のまま相応の努力をせよと言われても困る」

何をしたら合格できるかわからないということ？
何度も言うが、国際関係論の標準的内容を身に付けばよい。授業内容を概ね把握したか否か（出席）が目安になるはず。そうすれば成績は後からついてくる。理解なしに試験のことばかり気にするのは本末転倒。

・「抽象的で具体例との接点がわかりにくい」
確かに、おいおい具体的なレジームにも触れます。

表 1: 状況 1

期	選択	得点
1	CC	(2,2)
2	CC	(2,2)
3	CC	(2,2)
...
n	CC	(2,2)
計		2n, 2n

表 2: 状況 2

期	選択	得点
1	CD	(0,3)
2	DD	(1,1)
3	DD	(1,1)
...
n	DD	(1,1)
計		n-1, n+2

1 前回の復習：レジーム論

1.1 繰り返し囚人のディレンマ

囚人のディレンマのナッシュ均衡は (D,D)
が、繰り返しによって (C,C) が可能になる！

状況 1：ともに仲良く協力が続く
状況 2：片方の裏切りを契機に対立が泥沼化

Q: 長期的にどちらが得になるか？

状況 1 $2n$

状況 2 $n+2$ (うまく相手を出し抜けたとしても)

A: 繰り返しの回数、つまり n の値による！

$2n > n + 2$ なら状況 1 がいい！

つまり $n > 2$ のとき

この議論の問題点：無限回か有限回か

しっぺ返し (Tit for Tat) ¹戦略の有効性

1.2 批判

囚人のディレンマより男女の争いの方が相応しい？

国家は絶対利得ではなく相対利得を追求？

¹「初回は C、次回以降は相手の手を模倣」。つまり前回相手が C を選んでいたなら今回自分も C を選び、前回相手が D を選んでいたなら今回自分も D を選ぶという形で、相手の手を良いも悪いもそっくりそのままお返しする戦略。

2 制度の発生 3 : 世界文化論

2.1 構成主義

- ・理念・規範 (cf. 国益) 国家の行動²
- ・社会構造 主体³

例：自由貿易レジームにも覇権国の個性が反映

例：反アパルトヘイト政策への転換

2.2 認識共同体論

科学的知識をもった専門家のネットワークが、不確
実性に直面している国家の意思決定に影響

例：環境汚染への対応，自由貿易の推進？

2.3 世界文化論

世界の不可思議

- ・6-3-3 制の大衆教育
- ・陸海空軍 (内陸国でも！)
- ・多国間制度への一律参加

なぜ多くの国々が同じように行動？

「文化」= 台本・青写真がコピーされる

Isomorphism (同型化) & Decoupling (乖離)

: 青写真と実情との乖離が発生

× ある文化が広まったのは効率性ゆえ

²物質 < 観念の例：英国の 500 発の核兵器 北朝鮮の 5 発の核兵器

³とりわけ の方向性を重視 . cf. 経済学 = bottom-up 社会学 = top-down